芳中書

勝葉波　玉河　有隣

あらゝ家の森笑ひ嬉しきの春　州亀吾　楓字
とゝまつて見えるとをちもとを　お多賀屋　玉河
岸鶴よ多家呂れちらめの作く　舟鼎　扣風
ことのもみうつり園と花のたる　前ハシ　一山坊
月夜の中り明るくうつるの春　　吳水
又鶯も元明してやしきるの　　大弓　竜岡
紅梅や島画ほとゝぎすの　　ナカイ　思永
人のまの抱て見ぶたん花のたる　一春　一魚
あけぼのやとゝぶむらもやまを　八木沼
雪間や梅り寒ゝ妹うの　　川古
うまるより　岸辺の咲ちもの春　上高宮　亜十
加藤せるあるよ　　宮崎　琪水
る浦ゝ時ゝ　　智多屋　亀玉
少ゝ咲ゝ時ゝ　　明光亭
柴の戸り　梅の古木載　　斎沢　青風
ほの明や厩ゝ市ゝ　　信上田　三机
正月の国ゝ　　爭義
鶯ゝ　梅を少ゝ　　上諏　雲帯
里ゝ　　下ノ口　一醒
破壁ハをゝ　　立木　白川
厨ゝ　　武蔵谷山　宗西
井の戸ハ　梅一　　志考
小座敷ゝ　　十条　瀘湖
去年の春思て　　有隣
篤ゝ　　ヲヨセ　葉波
ハ　　同
梅ゝ音を　　一象
眠ゝ　　江戸　童人
陽炎ハ　梅の白ひの

乃里中

梅の咲ゝ　　撰者　金令
隣ゝ　　上野沼田　東葵
老ゝ　　底嘗　花月
大ゝ　　川中島　布川